

問1 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品（土偶）に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された
2. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された
3. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である
4. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である

問2 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
2. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。
3. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。
4. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。

問3 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 三内丸山遺跡
2. 吉野ヶ里遺跡
3. 登呂遺跡
4. 岩宿遺跡

問4 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
2. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された
3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した
4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

問5 縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. 土偶
2. 埴輪
3. 石包丁
4. 銅鐸

問6 縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
2. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
3. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
4. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。

問7 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器
2. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器
3. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器
4. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪

問8 青森県にある三内丸山遺跡の調査によって明らかになった、縄文時代の人々の生活や社会の様子として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。
2. 大陸から伝わった稲作を基盤とし、集落の周囲に深い堀を巡らせて外敵の侵入を防ぐ生活を送っていた。
3. 金属器を用いた農耕が普及し、王の権威を示すために巨大な前方後円墳を築造する社会を形成していた。
4. ナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を狩るため、特定の拠点を持たずに獲物を追って移動を繰り返していた。

問9 山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため
2. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため
3. 銅鐸 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため
4. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された	縄文時代の人々は狩猟や採集によって生活していたため、自然の豊かさは生存に直結する重要な要素でした。土偶が壊された状態で発見されることも多いことから、病氣や怪我を土偶に移して平癒を祈ったり、食べ物の豊作や安産を祈ったりする宗教的な儀式に使われていたと考えられています。選択肢にある「古墳の周辺に配置」されるのは埴輪であり、土偶とは時代も目的も異なります。
問2	答え 1 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。	三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたことを証明しました。
問3	答え 1 三内丸山遺跡	青森市にあるこの遺跡は、縄文時代中期から約1500年もの長期間にわたって継続した大規模な拠点集落です。それまでの縄文時代のイメージを大きく変える高度な建築技術や、計画的な集落の配置が確認されました。選択肢にある吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡は弥生時代の代表的な遺跡であり、岩宿遺跡は旧石器時代の打製石器が発見されたことで知られています。
問4	答え 1 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問5	答え 1 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病氣やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問6	答え 1 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。	縄文土器の出現は、それまで生で食べていた食料を「煮炊き」することを可能にしました。これにより、硬い木の実やアクのある植物も食用にできるようになり、食料の「保存」も容易にするなど、当時の生活を大きく安定させました。稲作が本格化し、貯蔵用としての機能がより特化していくのはのちの弥生時代のことです。また、祭祀に使われることもありましたが、主な用途は生活に密着した調理や保管でした。
問7	答え 2 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器	縄文時代の人々は、定住生活を営む中で土器を発明しました。この土器は低温で焼かれるため厚手で黒褐色になるのが特徴です。煮炊きが可能になったことで、それまで食べられなかった植物の灰汁（あく）を除いたり、固いものを柔らかくしたりして食べられるようになり、食生活が安定しました。
問8	答え 1 クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。	三内丸山遺跡では、大型の掘立柱建物や膨大な量の土器が見つかっており、縄文時代の人々が同じ場所に定住して高度な社会を築いていたことが判明しました。クリの栽培や、北海道・新潟など遠隔地との交易の証拠も見つかっており、従来の「狩猟採集のみで移動を繰り返す」という縄文時代のイメージを大きく覆しました。稲作や環濠集落は弥生時代、前方後円墳は古墳時代、大型動物の追跡は旧石器時代の特徴です。
問9	答え 1 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため	縄文時代には、女性の姿を象った土偶が数多く作られました。これらは、自然の恵みによる豊かな収穫や、新しい命の誕生（安産）を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。選択肢にある埴輪は古墳時代、銅鐸は主に弥生時代に関連する遺物であり、時代や目的が異なります。